

地学協働推進アイテム

(令和6年3月 更新)

地学協働を推進するヒントとなる取組をアイテム化し、本庁職員及び教育局職員が、市町村訪問や学校訪問を実施する際、首長や教育長、学校長等に紹介する。

マップやカレンダーの作成に関わる子どもたちの活動を、保護者はもとより、地域の方々
が日常的に確認することで地域が一体となった地学協働の推進を目指す。

■アイテム1 商店街活性化マップ

○北海道CLASSプロジェクトの取組をとおして、地域の特性を理解し、自分たちの住む地域のまちづくりを考え、活性化に向けて作成したマップ。

【北海道帯広三条高等学校】



○生徒が、取材などをとおして地域の商店街活性化に向けたマップを作成。マップは、修学旅行先で芽室町のPRのために活用。

【芽室町立芽室中学校】



■アイテム2 安全・通学マップ

○学校運営協議会において、子どもたちが安全に登下校できるよう作成したマップ。

【中札内村立中札内小学校】



■アイテム3 お散歩マップ

○地域高齢者の外出のきっかけづくりを目的とし、地域包括支援センターから学校へ相談があり、近隣高校の協力を得ながら学校運営協議会が協働で作成した地域の見所を伝える地図。

【函館市立深掘中学校】



■アイテム4 コミュニティ・カレンダー

○学校運営協議会が「学校と地域がつながる」ことを目的に作成した地域行事予定表。小中と町・道立施設、町内外のイベントを掲載。

【中標津町立旭ヶ丘学園】



○学校運営協議会が地域の方々にとつべつ学園(旧:当別小中)の活動内容を知ってもらうことを目的として作成し、さらに当別町内のイベントも掲載。

【当別町立とうべつ学園】



○地域の方に学校の取組を知ってもらうため、学校や認定こども園などの年間の行事予定をカレンダーに掲載し、町内に配布。

【秩父別町生涯学習推進協議会・秩父別町教育委員会】



■アイテム5 スタンプラリー

- 高校と余市町商店街連合会が連携して実施。商店街連合会の加盟店に行ったり、買い物をしたりするとスタンプがもらえる。景品は、高校生が実習で作った商品(ジャム等)。
【北海道余市紅志高等学校】



■アイテム6 (1) 商品開発

- 多くの地域住民と関わりながら、地域活性化に向けたプロジェクトを展開。日本遺産「炭鉄港」関連商品パッケージの考案(R3)や、地域の4事業者の協力を得ながら、地元の食材を使った商品を開発(R4)。
【北海道夕張高等学校】



- 北海道CLASSプロジェクトの連携校の豊富高校では、総合的な探究の時間において、町の基幹産業である酪農にちなんだ乳牛のデザインと、豊富の自然をイメージしたデザインの2種類のエコバッグを試作。豊富町役場総務課地域振興係と協働し、地元業者に300個のエコバッグを製作を依頼。
【北海道豊富高等学校】



- 1・2年生の総合的な探究の時間において、札幌保健医療大学と協働し、利尻島最大のイベント「利尻島一周悠遊覧人G」に参加するランナーに提供するオリジナルエイドドリンクを考案。
【北海道利尻高校】

【北海道利尻高校】

ドリンクの特徴

- ・餅の代わりに白玉を入れることでもちもちしている！
- ・昆布だしを入れることで塩分が取れる！
- ・白玉があるので満足感がありお腹が満たされる！
- ・疲れた体に染み渡るささ！
- ・分かりづらいかもしれないが利尻を感じられる！



■アイテム6 (2)

商品開発

○浦幌中学校3年生の総合的な学習の時間において、中学生の試作品を地元の菓子店が商品化。「なめふわ♡Sweetプリン」として、浦幌町のふるさと納税返礼品となっている。

【浦幌町立浦幌中学校】



○3年生の総合的な探究の時間において、CS委員の協力を得ながら、企業や団体と協働し、常呂自治区の活性化に向けた政策提言を具現化。生徒が開発したレシピを商品化するにあたり、関係企業に依頼するなど、流通や交渉、販売方法等について学びを深め、地元食材を使った「トロンチーノ」(ペペロンチーノ・パスタソース)を開発。北海道庁において展示・紹介、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)で販売。

【北海道常呂高校】



○農業被害対策として駆除されたエゾシカの有効活用を図る民間企業と協働で製品を開発。製品開発から生産までの一連の流れについて学びを深め、生徒がものづくりの専門性を活かして製作したペット用のフードボウルは、企業が製造する鹿肉のペットフードとのセットで中標津町のふるさと納税返礼品として道内外に販売。

【北海道中標津支援学校(高等部)】



■アイテム7

高校生カフェ

○「放課後に立ち寄れる場所づくり」「世代間交流ができる場所づくり」を目指しこれまでに2回、一日限定で芦別高校生によるカフェ「Yotte(ヨッテ)」を開店。道教委予算事業を活用して仕組みづくりを行い、取組を市教委予算事業として継続。

【芦別市地方創生塾】

Ashibetsu high school student Café
 芦別高校生による2回目の高校生カフェ開店!
 期日:10月22日(土)
 時間:10:00~14:30
 場所:道の駅スタープラザ芦別 屋外特設会場
 Menu (food)
 ・特製パンケーキ
 ・各種ドリンク
 event
 ・高校生による活動発表・展示
 主催:芦別市地方創生塾(協賛:OPコードで実行委員会)
 主 管:芦別市教育委員会/共 催:北海道芦別高等学校
 後 援:北海道教育庁空知教育局

○高校生が主体的に運営しているカフェ「そらら」は、メニュー開発・調理・接客・広報活動などすべて自分たちで構成。運営は、高校の公設塾に通う生徒と学生寮の生徒で行い、営業許可も含めて全て生徒が実施。

【北海道大空高校】

◇高校生カフェ
 高校生たちが主体的に運営しているカフェ「そらら」。メニュー開発・調理・接客・広報活動など全て自分たちでチームを構成し、月一回程度開店しています。地域の人たちに変えられるカフェを目指し、対話やコミュニケーション能力を育みます。

○“地域の人たちに喜んでほしい”という思いから、町内のイベントで高校生カフェを企画・運営。町外の有名店や旭川高等支援学校の生徒が焙煎したコーヒー豆を使用し、フードメニューも地元企業上田ファームの協力により提供している。駐車場確保や使用物品の借用など高校が町教委と連携して実施。

【北海道苫前商業高校】



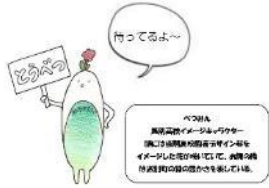
■アイテム8

高校の魅力を伝えるリーフレット

○高校の魅力を地域や中学生に伝えることを目的に、生徒が主体的に作成したリーフレット。

【北海道当別高校】

みんなのサイン!!
 教えて! 当別高校
 学校行事 祭典
 進学 説明
 授業 言語科の授業



■アイテム9 農福連携へ向けた取組

○学校と町役場との関わりの中で、平取町の農業と養護学校の生徒をつなぎ、学校卒業後の町内での農福連携を目指し、実際の農家で作業を実施。町民への、特別支援教育の理解を深めている。

【北海道平取養護学校】

工夫点・ポイント

【関係機関・団体等との連携】

平取町社会福祉協議会が農家と学校間の移動を支援し、トマト農家の方が実際の作業の指導を生徒に直接行い、作業後には評価をもらっている。生徒は、根切り、芽かき、傷んだ葉の除去、除草、蒔き、寒締めほうれん草の土取などの作業を行っている。

【多様なニーズに対応した教育課程の編成】

令和2年度から導入しているコース制の「ワークコース」で実施。将来の職業生活を見据えての基礎となる力を伸ばできるように実施している。

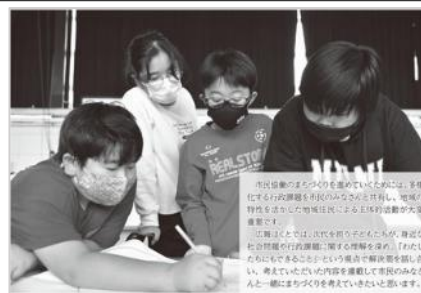
実施体制等



■アイテム10 広報誌プロジェクト

○市民協働のまちづくりを進めるため、北斗市が小中学生と地域課題について考え、市民と共有する取組。

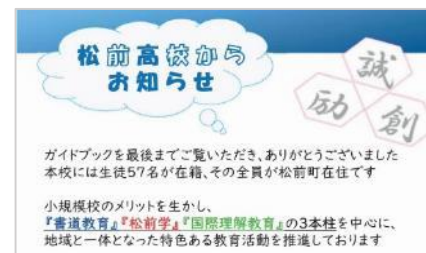
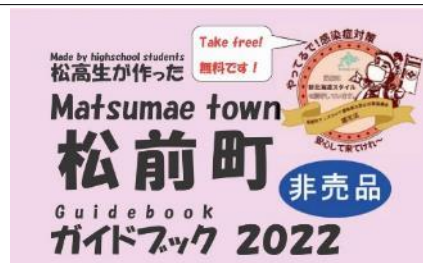
【北斗市】



■アイテム11 まちづくりガイドブック

○学校設定科目「松前学Ⅰ」の授業において作成した、町内のイベント情報や観光施設などを紹介する冊子。町の観光振興も視野に入れ、毎年授業で改訂したものを4月の桜祭りで観光客に配布しており、令和4年度で6年目を迎えている。

【北海道松前高校】



■アイテム12 アイヌ伝承の物語絵本化プロジェクト

○町内の学校が連携してプロジェクト実行委員会を結成し、町民有志からネイパル森に伝えられた地元に伝わる物語を、実行委員会が一冊の絵本に仕上げ、町内の小学校や図書館、道立図書館に寄贈。

【森町】



■アイテム13

交通安全の啓発

○学校運営協議会において「子どもたちの登下校時の交通事故が心配だ」という各校共通課題が話題となり、町内郵便局の協力を得てマップを作成。

【八雲中学校校区・学校運営協議会】



○上士幌町連合PTAより通学路の整備について要望があったことを受け、教育委員会職員が中心となり、子どもから高齢者までの地域住民が安心して歩行できるよう「止まれシート」を学校で作成。

【上士幌町教育委員会】

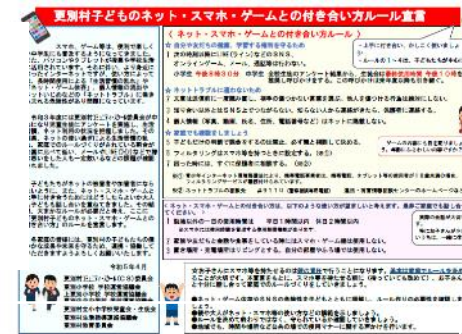


■アイテム14

インターネットの使い方

○児童生徒のインターネットの使い方が課題になっており、子どもたちのアンケート結果を元に、より良いインターネットとの付き合い方はどうあるべきか、村内の児童会・生徒会・地域・保護者が連携しながら話し合いを重ね「ネット・スマホ・ゲーム」についてのルールを作成。

【更別村】



■アイテム15

総合計画に基づいた地学協働活動

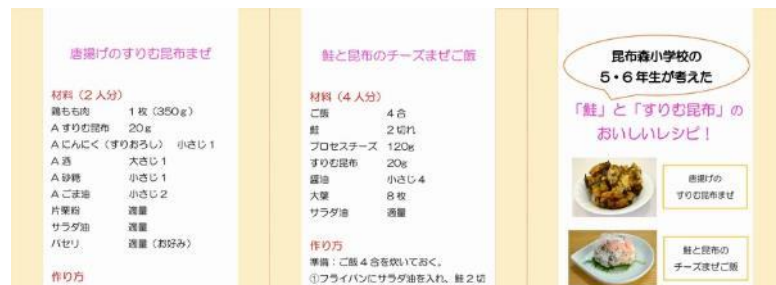
○町総合計画に基づき、学校教育と社会教育の連携強化を図るために3育(食育・木育・花育)を重点として掲げ、町内の活動拠点である各施設を積極的に活用し、町内小学校第3学年を対象とした樹木の成長や間伐についての学習や、カーネーションの収穫体験など、当麻町ならではの体験活動を充実。教育委員会が主導して、学校と地域人材をつなげている。

【当麻町】

■アイテム16 特産品を活かしたレシピの作成

○児童と地域住民の協働により作成した昆布森の特産品を活かしたレシピ。町内の釧路町地産地消センターで、児童がこのレシピを使った弁当を作成し、販売。レシピは、釧路町地産地消センターに設置され町内外の訪問者へ配布。

【釧路町立昆布森小学校】



○全校生徒が総合的な学習の時間「食育」で学んだ知識を活かし、本別町の食材を利用したどんぶりメニューを考案し、校内で発表。

【本別町立勇足中学校】



○児童が野菜などを使ったメニューを地域企業と一緒に考案。地域企業がオリジナル弁当を作成し、児童が販売。

【厚真町立上厚真小学校】



■アイテム17 まちじゅう先生オープンキャンパス

○町内の第6学年全員を対象に職業体験を実施。セチリ地区の企業と協働することで、児童は望ましい勤労観・職業観を得るとともに働くことの喜びを実感。また、地域全体で子どもの教育に参画する機運を醸成。

【釧路町教育委員会】



■アイテム18 まちづくりポスター

○第3学年がSDGsのまちづくりについて総合的な学習の時間で学び、PRポスターを作成。

【上士幌町立上士幌中学校】



■アイテム19 仕事図鑑

○第1学年の「産業社会と人間」の授業で、さまざまな職種の大人達へのインタビューを通じて得た職業人の問題解決能力や仕事に向き合う想いをまとめ、生徒が冊子を作成し、道の駅等に配置。

【北海道大空高等学校】

○仕事図鑑
1年次「産業社会と人間」の授業で、多くの職業人の方のお話を伺います。仕事のお話を通して、大人たちの問題解決能力を学び、「仕事図鑑」にまとめます。過去、以下のような職業の方のお話を伺いました。
例) 社会起業家・アウンソー、建設会社社長・農業会社副社長・アロマセラピスト・ミュージシャンなど



■アイテム20 政策提言

○町採用のコーディネーターを高校に配置。関係人口を増やす政策について、民間企業とともに探究し、町長に提言。

【北海道大空高等学校】



○まちの活性化を図るため、児童が農産物をモチーフとした新しいキャラクターや観光のポスター、ポストカードの制作などを町へ提案。

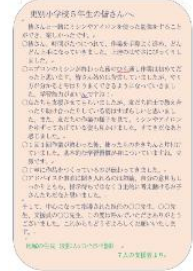
【音更町立緑陽台小学校】



■アイテム21 子どもたちへの応援メッセージ

○学校の教育活動に関わった方や地域の方が子どもたちの良さをメッセージで伝える。関わってくれた方の希望により、応援メッセージを送付。

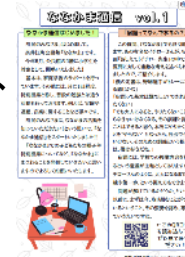
【更別村地域学校協働本部(みんなの学校応援団)】



■アイテム22 地域おこし協力隊による公設塾

○「家庭学習の時間が少ない」、「自主学習の方法が分からない」という町内の子どもたちの傾向を踏まえ、学習習慣の定着と自ら学ぶ力を育むサポートを行うため、地域おこし協力隊と協働し、常設型の公設塾を開設。

【奈井江町】



■アイテム23 P R 動画の作成

○町の魅力を再発見し、地域の理解を深めることができるよう、第3学年以上による総合的な学習の時間において、地域PRする動画を作成。町道の駅で放映。

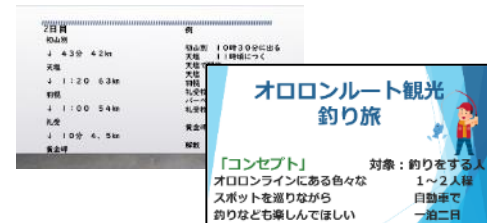
【足寄町立螺湾小学校】



■アイテム24 観光プランの考案

○第3学年の「課題研究」での「みち学習」において、地元の観光関係者や地域計画に携わる企業、北海道開発局等の協力を得て、オロロンラインにある様々なスポットの観光プランを作成。

【北海道苫前商業高校】



■ アイテム25 全市的なキャリア教育の推進

- 釧路市教育委員会と釧路青年会議所などが連携し、市内の中学2年生全員を対象としたキャリア教育をオンラインで実施。地元の多様な企業の方と中学生が勤労観・職業観などについて意見を交わすなど、生徒のキャリアアップを図っている。

【釧路市教育委員会】

■ アイテム26 定住外国人向けリーフレット

- 町内に定住する外国人が増加していることから、高校生が総合的な探究の時間において、外国人が健康的に暮らすため、病院を利用しやすくすることを目的とし、町保健福祉課や病院、民間企業などと連携して、日本語、英語、ヒンディー語の医療受診リーフレットを作成。

【北海道浦河高等学校】

